

春の彼岸によせて

令和三年三月 大乘寺 長老 岡 光俊

新型コロナウイルス感染により、お亡くなりになられた全世界の方々のご冥福を心よりお祈り申し上げます。また感染拡大により、仕事を失われたかた、住まいを追われたかた、誹謗中傷を受けたかた、あるいは、国内外での様々な活動の中止等、その影響は計り知ることができないものとなっています。

このような状況のなかで、感染拡大防止に配慮し、漸くイベントを開催されたかたからは、「当たり前」と思っていた生活がそうではなかったこと。「普通の生活がどれだけ有り難いことなのかを痛感しました」と、感謝の声を聞く機会もございました。

今や、すべてが世界規模で動いています。自分のおこないが全世界に影響を及ぼしかねないということです。自らの言動は自分だけの問題ではありません。近年、簡単に個人がSNS等で情報を発信でき、またそれが瞬時に全世界へ拡散されてしまう時代です。一度だした言葉や文字は永遠に残り、完全に消すことができません。

全人類が新型コロナウイルスに立ち向かっているなかでも、世界の彼方此方で戦争や紛争が繰り返され、地域や社会、学校や職場、家庭、家族間での争いも尽きることはありません。何度も過ちを繰り返し、争いからはお互い何も得られないどころか、死や大きな負を何十年も背負い続ける。そのことを知識として持っていて、感情に動かされて一瞬で争いへと進むのが人間です。コロナ禍の中、先ゆき不透明によるストレスからの争いが増大しています。

このような大変なときにこそ、改めて足元を見直すことで本来の自分をしっかりと取り戻しておく大切なときではないでしょうか。

私たちは先を急ぎ過ぎてはいないでしょうか。

時間を活かす一つとして、ご先祖さまが慣れ親しんでこられたお

経を手にとってみるのもよいのではないでしょうか。争いを軽減する為。イライラの原因を見つける為。今まで思っていた原因が思い違いであったことに気づく機会になるかもしれません。

春の彼岸。

人の智恵は心こころが伴ともなうことで活かされ往ゆくもの。
心こころが伴ともなわぬ智恵は相手を傷つけます。

愚痴の多いかたは心こころが育そだっていないので、佛さまの智恵であるお経を繰り返し頂くことで、気づけば身みについているものとお釋迦さまは説といておられます。

命いのちを引き継つぎ、守まもって頂たまっているご先祖さまに感謝を申すよい時間ときとなりますように、ご先祖さまも桜の花と暖かな春の日差しで、皆さまのお越しをお待ちかねです。

合掌